

【峡南半農半×だより】 第4号

—「ジャガイモ」と「ミニトマト」の栽培方法について—

令和8年2月26日
山梨県峡南農務事務所

これから春を迎えるにあたり、栽培する作物はお決まりですか？
事務所では、比較的農作業の負担が少ない「ジャガイモ」をお勧めします。男爵やキタアカリ、メークインなど品種も豊富で、様々な料理に活用することができます。
また、家庭菜園で人気の高い「ミニトマト」を、苗づくりから本格的に栽培することも良いと考えます。どちらも、今から取り組めば、6月頃に収穫ができます。

～ジャガイモの栽培方法～

□ 3月上旬頃：施肥

種イモを植付ける2～3週間前に、100㎡あたり牛ふん堆肥200kgと苦土石灰10kgを撒きます。その後、植付ける1週間前に、化成肥料8-8-8の場合、100㎡あたり15kgを撒きます。ジャガイモはpH6.0を超えると「そうか病」が発生しやすくなるため、石灰は撒かずに耕します。

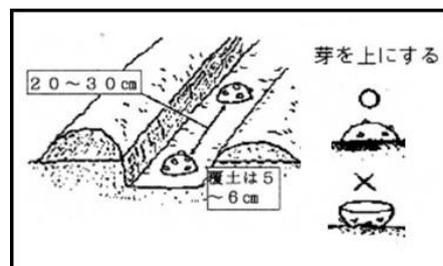
□ 3月下旬頃：定植

□ 種イモ切り

植付け1～2日前には、種イモを一つあたり30～40gのサイズにして（小さいものはそのまま）、芽を必ず残して切っておき、風通しの良い場所に置いて切り口を乾かします。種イモは100㎡あたり20kg程度用意します。

□ 植付け

株間20～30cm、深さ5～10cm、列の間隔は60cmを目安に、芽を上にして種イモを置き、上から5～6cm覆土します。生育中に土寄せをするため、畝は平らか低い方が良いでしょう。



□ 5月頃：追肥・土寄せ

追肥は、NK化成肥料14-0-14の場合、100㎡あたり1.5kgを2回程度撒きます。芽が出揃ったら、除草を兼ねて土寄せを行います。土寄せが不十分だとジャガイモが露出し日光を浴びることで緑色に変色しますので、しっかり土寄せを行い、土中のジャガイモが光に当たらないようにします。土寄せは収穫するまでの間に2～3回行いましょう※緑色になったジャガイモには天然毒素を多く含み、食中毒を引き起こす可能性がありますので、食べずに処分しましょう。

□ 6月頃：収穫

花が咲き、茎や葉が黄色くなった頃が収穫の目安です。雨が降り水分が多い時はイモが傷みやすいため、晴れた時を狙って収穫すると良いでしょう。

収穫後は、新聞紙などで包み日光や蛍光灯など光が当たる場所は避け、風通しが良く涼しい場所で保管しましょう。（温度5～10℃、湿度やや低めが目安）

～ミニトマトの栽培方法～

トマトは日光を好む野菜です。栽培には、日当たりの良い場所が適しています。

□ 3月頃：播種（ポットの場合）

ポットに指で1cmの穴を空け、種を3粒程度蒔き、上から5mmほど覆土します。土全体が湿って色が変わるくらいまで、たっぷりかん水をしましょう。

□ 3月～4月：育苗管理（間引き）

□1回目：本葉（子葉の上の葉：図参照）が1～2枚の頃に、細い株や葉が小さい株を中心に間引きます。

□2回目：本葉が3～4枚になったら、太い元気な株を選んで、その1本だけを残します。

※本葉が2枚になるまでは、室内などの暖かい場所で管理するのが良いでしょう。

□ 4月頃：施肥

定植する2週間前までに土を深めに耕し、1㎡あたり苦土石灰100g、牛ふん堆肥2kgを撒いて、少し寝かせます。畝幅は60cm～70cm、畝の高さは10～15cmが良いでしょう。

□ 5月頃：定植

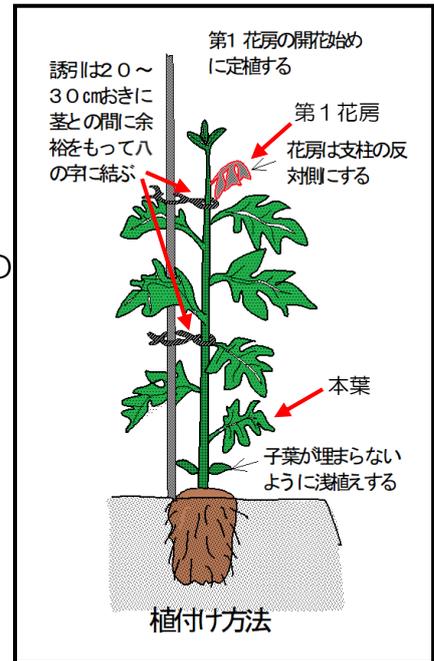
本葉が7～8枚になり、第1花房（株が最初につける花房：図参照）の花が咲き始めた頃、あらかじめ支柱を設置して苗を定植します。根が活着できるように、植え穴にたっぷりとかん水します。逆にその後、第3花房が開花するまでは、根が深く張るようにかん水は控えめにします。

□ 5月～6月：芽かき

主枝と葉の付け根の間に出てくる「わき芽」を手で取ります。週に1回のペースで行いましょう。

□ 6月頃：収穫

ミニトマトが赤く色づき、へたの部分が少し丸まってきた時が収穫のタイミングです。実に触れると簡単に枝から外れる状態が理想です。



～結びに～

いつもご愛読ありがとうございます。今年度からの新しい試み「峡南半農半Xだより」はいかがだったでしょうか。今後の紙面づくりの参考に、記事への感想や取り上げてほしい作物などのご要望をお寄せいただくと幸いです。

問い合わせ先 山梨県峡南農務事務所（峡南地域普及センター）
農業農村支援課担い手育成担当
住所：市川三郷町高田111-1
電話番号：055-240-4116
E-mail：kn-noumu@pref.yamanashi.lg.jp